

さいの神

実行委員長 小熊由紀夫

コロナの影響も薄れた十一月二十三日、さいの神の基材準備を行いました。この日は天候に恵まれ、トバ作り、葦、細竹、孟宗竹を切り集めて会場に置く作業を行いました。

本番当日一月十四日は運よく一月では珍しい程の好天で、昨晩の雪が少しあったものの組立作業がやりやすく助かりました。

点火後は見事な炎と煙が上がリ、とても見ごたえがありました。

スルメ販売のほか、久しぶりに甘酒やお神酒の振舞いを行ったところ大変好評で四百人ものご参加を頂きました。

この行事に参加ご協力して下さいました方々に感謝致します。有難うございました。



さいの神 組立作業風景



スルメの竿付け作業



葦を刈って小分けに



スルメ用の細竹の切り出し作業



稲わらを使っのトバ作り



孟宗竹の伐採、切り出し作業

令和五年は、いままです行動の大きな制約となっていた新型コロナの五類移行という大きな事柄がありました。前年までいろいろな行事が中止や自粛となり、外出に際してはマスク無しではままならない窮屈な日々が続いていました。

それが、五類移行に伴い行動制限も緩和され、自粛していた行事も出来るようになりました。

各地でのお祭りや花火大会、スポーツ観戦でも人員制限もなくなり、声出し応援も可能となりました。

そのような状況化で、特にスポーツ関連で、サッカーワールドカップ、野球のWBC、ラグビー、バスケットボール等世界的な催しで日本(日本人)の活躍が目立ち、大いに楽しませてもらいました。

また、今年J1に復帰したアルビレックス新潟が堂々たる戦い方で十位となりました。

通常の生活に戻ってきたということを実感し、その良さを確認できました。

姥ヶ山自治会においても、姥ヶ山祭り、町民運動会、防災訓練等再開され、町内の懇親の場が四年ぶりにもどって来しました。

久しぶりの行事で、準備等では経験者が少ないため、段取りや手順を思い出しながら苦労して準備しましたが、参加してくれた皆さんが楽しんでいる姿を見てその甲斐があったと感じていました。

令和六年は、一月から通常の活動ができるので、より多くの皆さんに参加していただけたらいいと考えています。

S B T

窓



編集後記

昨年の五月に新型コロナウイルスが第五類扱いの感染症になり、ようやく我が国におけるパンデミックも終息をむかえました。それを受けて、姥ヶ山自治会もほぼ例年通りの活動を行うことができ、四年ぶりにお盆の夏祭り、秋の運動会が行われました。

無事開催出来た事で、自治会員の皆様の、待っていたぞと思いきり楽しんでる様子。役員も久しぶりの開催で苦労する部分もあったのですが、皆様の笑顔で苦労が報われたのではないでしょう。か。会報に寄稿してくださった文章からもその思いが十分に感じられます。

この三年間、自治会運営にもいろいろな困難があった事でしよう。しかし、コロナ禍も乗り切ることができました。皆様長い間お疲れ様でした。

最後に、一月一日に発生した令和六年能登半島地震には皆様も驚かれたことと思います。能登地方をはじめ被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日でも早く平穏な日々が訪れます様にと願ってやみません。今年度ももうすぐ終わりますが、どうか皆様お身体ご自愛ください。

